

9月の安全指導

「落雷、台風の危険性、特別警報について」

9月は夏の暑さから秋への移行期であり、台風や秋雨前線の影響で異常気象がおこりやすい時期です。警報基準を大きく超える大雨や洪水の際には、特別警報が出される場合もあります。警報や災害の種類を理解すること、強風や落雷への対策と併せて知識として身につけておきましょう。



【特別警報とは？】

特別警報は気象災害、水害、地震、噴火など重大な災害が起こる恐れが高い場合に発表される情報です。これが出ている状況は危険度分布が「極めて危険」となり、特別警報が発令される前に避難することが必要となります。ハザードマップなどを参考にし、日頃から避難場所や避難ルート、家族間での連絡手段、情報を入手する方法を確認して下さい。

特別警報	重大な災害が発生する恐れが大きいときに発表
警 報	重大な災害が発生する恐れがあるときに発表
注 意 報	災害が発生する恐れがあるときに発表

【大雨や暴風に際して】

気象情報をよく聞いて行動しましょう。ただし、停電等の可能性もあるので、手回し発電や乾電池式のラジオがあるとよいでしょう。警報が発令されているときは基本的には家の外にはでません。（もし、警戒水位を超える可能性があるときは垂直避難、もしくは高いビル移動するなどの措置が必要です。）やむを得ず外に出る際は、道路の冠水には十分に気をつけてください。側溝や排水路が見えなくなっている場合もあります。また、用水路や河川に接近することは非常に危険です。「どうなっているんだろう。」などといった軽い気持ちで見に行くことは絶対にしないでください。

暴風の際には、看板などが落下してくる可能性があります。風にあおられて転倒することもあります。自転車等にも十分に気をつけて行動するようにしてください。

【落雷について】

通常の雷は遠くから徐々に近づいてくることが予想されますが、突然落ちる場合もあります。急な雲行きの変化、遠雷を聞いたら、すぐに室内へ避難をしてください。どうしても安全な避難できない際は、電柱、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところに退避してください。